

# 小学生に読みきかせ

## — 中学年向き —

小学生に絵本の読み聞かせを行ってみようという方を対象にしたリストです。図書に関する記載事項は、書名・編著者名・画家名・訳者名・出版社・大きさ・ページ数・ISBN・通して読むのにかかる時間の目安の順になっています。

**おかえし** 村山桂子著 織茂恭子絵 福音館書店 20×27cm 31p 978-4-8340-0482-3 7分

タヌキの家のとりにキツネが引っ越してきて、あいさつにいちごを持ってきました。すると、今度はタヌキが「おかえし」を、キツネが「おかえしのおかえし」をと、どちらも「おかえし」をやめません。どんどんエスカレートする「おかえし」合戦をユーモアたっぷりに描いています。

**おだんごばん** 瀬田貞二訳 脇田 和絵 福音館書店 31cm 24p 978-4-8340-0057-3 12分

ロシア民話。おばあさんがこしらえたおだんごばんは、ころころころがり家の外へ逃げ出しました。動物たちに食べられそうになりますが、歌を歌ってかわします。優しい色合いの挿絵が、調子のよい文章やゆかいなお話になじんでいます。

**ガラスめだまときんのつののヤギ** —ベラルーシ民話— 田中かな子訳 スズキ コージ絵

福音館書店 22×31cm 32p 978-4-8340-0771-8 6分

おばあさんの麦畑にある日、乱暴者のヤギが入り込み、麦を食べ畑を荒らします。クマをはじめ、森の動物たちにも追い出すことができませんでしたが、ついに一番小さいものが追い払ってくれます。迫力ある画でクマさえ歯が立たないヤギを描いています。

**きつねのホイティ** シビル・ウェッタシンハ著・絵 まつおか きょうこ訳 福音館書店

31cm 43p 978-4-8340-0198-3 9分

お腹をすかせたホイティは、人間のふりをして、アンゴウさんたちの家を訪ねます。キツネだと知っていながら、だまされたふりをし、ごちそうを振舞う女たちとキツネのやりとりがユーモラスです。韻を踏んだ歌がとても美しいです。

**さんねん峠** —朝鮮のむかしばなし— 李錦玉著 朴民宜絵 岩崎書店

25cm 28p 978-4-265-91021-2 5分

さんねん峠で転ぶと三年しか生きられない、という言い伝えがありました。ある日、おじいさんが石につまずいて、転んでしまいます。心配のあまり病気になってしまいますが、水車屋の助言で、再び元気を取り戻すことができました。村人たちのおじいさんへの愛情が感じられる朝鮮の昔話です。

**じごくのそうべえ** —桂米朝・上方落語・地獄八景より— 田島征彦著・絵 童心社

26×26cm 39p 978-4-494-01203-9 10分

軽業師のそうべえは、綱渡りの途中で転落し地獄に落ちてしまいます。ところが、山伏、歯抜き師、医者とともに、特技を活かして鬼をさんざんこずらせ、とうとう地獄から追放されてしまいます。上方落語に材をとった奇想天外なストーリーと、大胆で力強い絵で大人も子どもも楽しめます。

**ジロがなく 山下ケンジ著・絵 講談社 25×27cm 32p 978-4-06-132343-8 6分**

犬のジロはカラスに育てられました。鳴き声のせいでいじめられたジロは旅に出て、いつしか決して鳴かない強い犬として大きな群れを率いるようになります。群れを守ろうとするジロの勇気に胸が打たれます。淡々とした語りくちで物語にひきこまれます。

**しりとりのだいすきなおうさま 中村翔子著 はた こうしろう絵 鈴木出版**

21×28cm 25p 978-4-7902-5069-2 5分

王様はしりとりが大好きです。けれど、料理がしりとりの順番に出てこないと、とたんに暴れます。そんな王様と家来たちのやりとりを、親しみやすい絵柄とリズムのよい文章でユーモアたっぷりに描きます。表紙や見返しまでしりとり遊びが楽しめます。

**スーホの白い馬 ―モンゴル民話― 大塚勇三再話 赤羽末吉絵 福音館書店**

23×31cm 47p 978-4-8340-0112-9 10分

貧しい少年スーホが心をこめて育てた白馬を、殿さまは非情に取り上げました。白馬はなんとかしてスーホの所に帰ろうとします。モンゴルの「馬頭琴」という楽器にまつわる民話が、横長の画面いっぱいに描かれた雄大な大平原の絵とともに語られます。馬と少年のお互いを思う気持ちが心を打ちます。

**せかい1おいしいスープ ―あるむかしばなし― マーシャ・ブラウン再話・絵 渡辺茂男訳**

ペンギン社 27cm 50p 978-4-89274-010-7 10分

空腹の兵隊たちは村人に食べ物を乞いますが、断られます。ところが兵隊たちが「石のスープを作ります」と宣言すると、村人たちは興味津々で集まってきます。兵隊たちの言葉にのせられ、村人たちはスープの材料を持ち寄ります。言葉たくみな兵隊たちと、知らず知らずに材料をもちよってしまう村人たちのやりとりがゆかいです。

**だいくとおにろく ―日本の昔話― 松居 直再話 赤羽末吉絵 福音館書店**

20×27cm 27p 978-4-8340-0085-6 10分

橋を架けた見返りに目玉をよこせと迫る鬼、大工は窮地においこまれます。名を当てれば許す、という日本の昔話です。カラーと白黒が交互に配された挿絵は、謎解きの雰囲気をよく出しています。ひらがなでつづられた文章は簡潔ですが、ずっと心に入ります。

**ちゃんとたべなさい ケス・グレイ著 ニック・シャラット絵 よしがみ きょうた訳 小峰書店**

24×24cm 26p 978-4-338-12618-2 7分

デージーはお豆が大嫌い。ママは、アイスクリームをあげるとか、夜遅くまでおきていていいとか言って、何とか食べさせようとしています。画面いっぱいに描かれた、はっきりした線と色使いの絵が、母親と子どものやりとりをユーモラスに表しています。

**としょかんライオン ミシェル・ヌードセン著 ケビン・ホークス絵 福本友美子訳 岩崎書店**

30cm 42p 978-4-265-06817-3 10分

ある日、町の図書館に大きなライオンが入ってきました。「きまり」を守って、一緒におはなしをきいたり、お手伝いしたりするライオンに、みんなもだんだん親しんできました。ところが、ある日大きな声でライオンがほえてしまったのです。やわらかなタッチの絵で人とライオンの暖かい交流を描きます。

**トマトさん 田中清代著・絵 福音館書店 20×27cm 27p 978-4-8340-2213-1 6分**

夏の暑い日、畑のトマトさんのそばを、みんなが川遊びに行こうと通り過ぎます。しかしトマトさんは体が重くて動けません。強がっていたトマトさんがだんだん心細くなる様や、皆がトマトさんのために一致団結する様が共感を呼びます。迫力のある絵にも目をひきつけられます。

**ねえ、どれがいい？** ジョン・バーニンガム著・絵 まつかわ まゆみ訳 評論社

31cm 30p 978-4-566-00198-5 5分

「もしもだよ、きみんちのまわりがかわるとしたら、大水と、大雪と、ジャングルと、ねえ、どれがいい？」からはじまる究極の選択が次々に登場します。たくさんの「もしも」が淡い色彩の絵とともに子どもの空想の世界を広げます。

**花さき山** 斎藤隆介著 滝平二郎絵 岩崎書店 25cm 34p 978-4-265-90820-2 5分

山菜を取りに入ったあやは、やまんばに出会います。やまんばから、足元に咲く美しい花は、優しいことをひとつすると、ひとつ咲くことを教えてもらいます。おりまぜた方言が味わい深く、村人やあやの優しさが心に響きます。

**まゆとおに** ーやまんばのむすめまゆのおはなしー 富安陽子著 降矢なな絵 福音館書店

27cm 30p 978-4-8340-0998-9 6分

やまんばの娘まゆはある日、鬼に会いました。まゆをだまして、ゆでて食おうとする鬼ですが、まゆの怪力にたまげてしまいます。小さな女の子が知らないうちに鬼をやっつけてしまうゆかいなお話と、表情豊かに描かれた絵が笑いを誘います。

**やまなしもぎ** 平野 直再話 太田大八絵 福音館書店 21×23cm 39p 978-4-8340-0707-7 15分

病気の母親のために、三人兄弟が順番にやまなしを取りに行きます。長男、次男が戻らず、ついに三男が行くことになりました。途中、一人のばあさまに出会います。細部まで緻密に描かれた挿絵が美しく、冒険に向かう緊迫感をよくあらわしています。

**よあけ** ユリー・シュルヴィッツ著・絵 瀬田貞二訳 福音館書店 24×26cm 32p 978-4-8340-0548-6 3分

湖のほとりでおじいさんと孫が毛布にくるまって眠っています。ふと湖にさざなみが立ち、ゆっくりと夜が明け始めます。音もなく静まりかえった夜更けから、うっすらと風景に色がつき、朝日が昇るまでの様子が美しく丁寧に描きだされ、自然の雄大さを味わえます。

**ラン パン パン** ーインド民話ー マギー・ダフ再話 ホセ・アルエゴ絵 アリアンヌ・ドウィ絵

山口文生訳 評論社 21×26cm 30p 978-4-5660-0281-4 9分

さらわれた女房を取り返すため、クロドリは横暴な王様に戦いを挑みます。ネコ、アリ、木の枝、川を味方につけ、ランパンパンと太鼓の音も勇ましく、いざ宮殿へ。さて、クロドリは見事女房を助け出すことができるでしょうか。はっきりとした色彩のコミカルな絵が、奇想天外なお話にぴったりです。

